

■ スイセン・・・



ある日、ナルキッソスが水面を見ると、中に美しい美少年がいた。もちろんそれはナルキッソス本人だった。ナルキッソスはひと目で恋に落ちた。そしてそのまま水の中の美少年から離れることができなくなり、やせ細って死んだ。ナルキッソスが死んだあとそこには水仙の花が咲いていた。

有名なギリシア神話です。スイセンの、下に向けて花首をかしげて花を咲かせる様子を、あたかも水面をのぞきこむように見取っての伝説ですが、見事です。この伝承から、スイセンのことを欧米ではナルシスと呼び、また、ナルシストという言葉の語源ともなっています。

和名のスイセンは、漢名の「水仙」を音読みして「すいせん」になりました。漢名の由来は、「仙人は、天にあるを天仙，地にあるを地仙，水にあるを水仙」という中国の古典によるもので、水辺を好んで繁茂する清らかな花の姿と芳香がまるで「仙人」のようなところから命名されたと言われていています。その他に、日本では、雪の中でも春の訪れを告げる花ということで、「雪中花（せっちゅうか）」という素敵な名前でも呼ばれることもあります。

さて、このスイセンは、園芸品種が1万品種以上もあり、年々その数が増えています。花のつき方としては、日本水仙のような房咲きのタイプと、花茎に1個だけ花をつけるタイプに二分されます。球根は、1本の茎を栄養を貯えた葉がとり巻く鮮茎で、葉の多くは途中から時計回りにネジれる性質があります。これは細長い葉が風によって倒れることを防ぐためではないかと考えられています。花被の内側3枚が花弁、外側3枚が萼にあたります。中央にあるラッパ状、林状のものは副花冠、めしべは1本、おしべは6本あります。カナリア諸島から地中海辺りが原産地であり、中国を経て日本に来ました。

ところで、水仙と聞いて、ブラザーズフォアの「Seven daffodils（7つの水仙）」を思い出される方も多いのではないのでしょうか。「おうちも土地もお金もないけれど、千の丘に降り注ぐ朝を見せてあげよう。そして、口づけと7本の水仙も。」どこかに置き忘れたものがよみがえってくるようです。

*I do not have a mansion
I haven't any land
Not one paper dollar
To crinkle in my hand*

*But I can show you morning
On a thousand hills
And kiss you and give you
Seven daffodils*